

土壌中の放射性物質に関するモニタリング定点調査

研究のねらい

群馬県では、県産農産物の安全性確保を図るため、農耕地土壌の放射性セシウム汚染状況調査を行っています。モニタリング定点調査は、平成23年度以降の経年的な放射性セシウム濃度の推移を把握するため、継続的な調査を実施しています。

調査結果の概要

1 放射性セシウム濃度の変化

平成24年度、県内88地点で調査を実施したところ、各地点の濃度は、15～1,742Bq/kgの範囲で、平均すると208Bq/kgでした。各地点の平成23年度調査の放射性セシウム濃度に対する平成24年度の変化率は、22%から170%の範囲であり、50～75%の地点が最も多くなっていました（図1）。

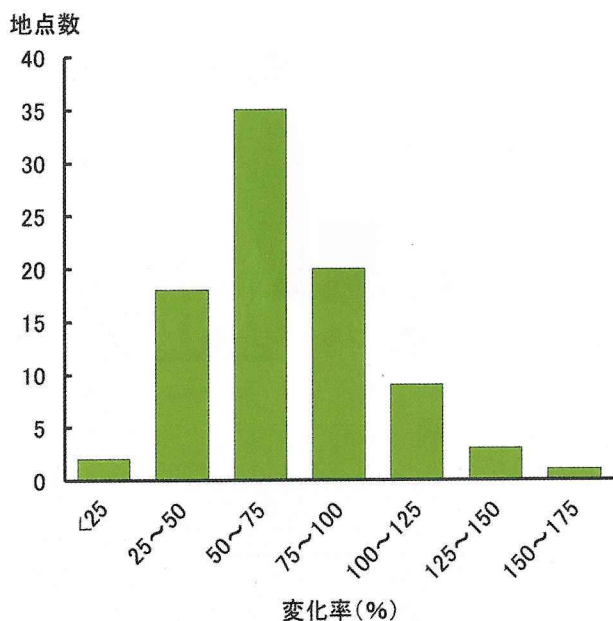


図1 土壌中の放射性セシウム濃度変化率（平成24年度/平成23年度）の分布

各地点の放射性セシウム濃度変化率の平均値は72%となり、約1年半の間に28%減少していました。このことは放射性セシウムの崩壊による物理的減衰（約20%）以上に減少したことを示しています（図2）。

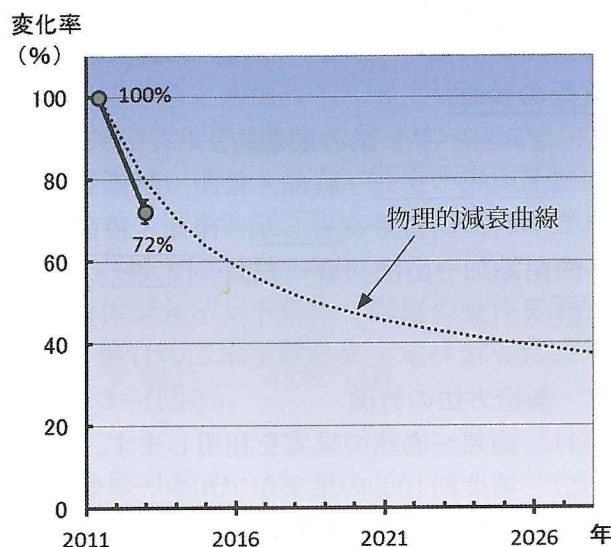


図2 土壌中の放射性セシウム濃度変化率の推移

2 変化の要因

各地点における変化率が物理的減衰と異なる値を示したことについては、同一ほ場内のばらつきのほかに、風雨によるほ場からの流亡・流入などの自然要因や、ほ場管理の違いなど人為的要因の差による可能性が考えられます。

今後の取り組み

モニタリング定点調査は、平成24年度から平成27年度までは毎年1回、以降は5年ごとに1回実施し、放射性セシウムの濃度の推移を確認する予定です。

（執筆者：飯塚 正英）